

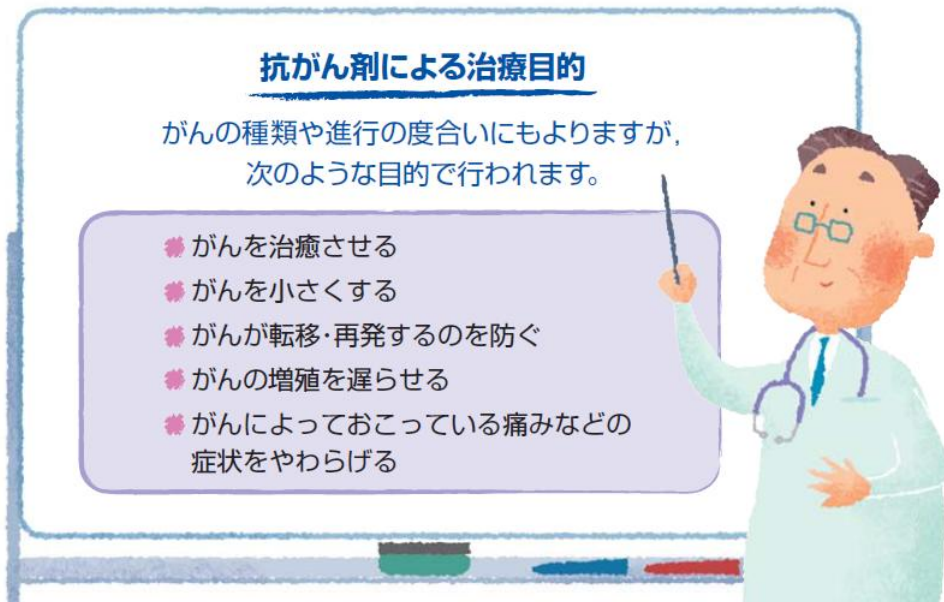
経口抗がん剤の副作用について

私たちのからだは、たくさんの細胞からできています。通常、細胞は増殖をコントロールする遺伝子により、秩序正しく増殖したり、死滅したりします。ところが、何らかの原因でその遺伝子に傷がつくと細胞の増殖がコントロールされなくなり、無秩序に増え続け腫瘍となります。

良性腫瘍では増殖速度は遅く、周囲の細胞を破壊したり体の他の場所に転移することはありません。一方、悪性腫瘍では腫瘍細胞が速い速度で無制限に増殖し、周囲の細胞を破壊したり体の他の場所に転移して生命に危険を及ぼすようになります。この悪性腫瘍を一般に「がん」といいます。

がんの主な治療法には、外科療法・放射線療法・薬物療法などがあります。薬物療法はさらに、化学療法・分子標的治療・ホルモン療法・緩和ケアなどに分類されます。今回は、化学療法について少し紹介します。

化学療法とは、体にあるがん細胞を薬（抗がん剤）によって攻撃します。使われる目的は様々ですが、おもに下記のような目的で使われます。



抗がん剤には、飲み薬・注射剤・坐剤・軟膏などがあります。最近では経口抗がん剤が処方されることも多くなり、家庭での副作用管理が重要となっています。抗がん剤は、コントロールを失い増殖するがんをターゲットにしますが、正常細胞の中でも特に細胞分裂

が盛んな骨髄細胞や消化管細胞(口, 胃, 腸の粘膜), 毛母細胞などに影響を及ぼし, 次のような症状が副作用としてあらわれます。

A : 白血球減少, 貧血, 出血

B : 下痢, 吐き気, 口内炎, 脱毛, 味覚変化, 皮膚炎

C : 心臓や腎臓, 膀胱, 肺, 神経組織の障害, 生殖機能の障害

副作用は, Aのように自覚症状が出にくい場合もあります。副作用を早い内に発見するために, 採血などの定期検査を行います。

薬剤により少しずつ副作用の傾向は違ってきます。また, いくつかの薬剤を組み合わせる場合もありますので, はじめにどのような副作用が出る薬剤なのかしっかり説明を聞くことが大切です。あらかじめ予想される副作用を理解して準備しておけば予防できる場合もありますし, 実際に副作用が起こったときに早く適切に対処できるので, 症状が重くなるのを防げます。体調の変化を感じたら, 遠慮せずに担当の医師, 看護師または薬剤師に相談して下さい。

副作用を
早く見つけるためにも
採血など
定期的な検査が
必要です

